

---

デジタルパンク通信 第十二話 2001年1月2月合併号

---

Q イナカでしょうか、都会でしょうか。

A 都会です。

2000年、ナスダックは半値になった。ネット系は130社も潰れた。ネットバブルはじけてシオシオのパー。これでアメリカのIT革命もおわりだと。日本は始まったとたんにおわりだと。まったくチヨロイ革命だったもんだ。草葉の陰でマルクス様が泣いてるぜ。ゲバラ様も泣いてるぜ。商売のレベルでしかデジタルをとらえてなかった人たちがこれで退場してくれればせいせいするけど。

いずれにしろ、革命なんて大事な言葉を簡単に使う人は信用しない方がよろしい。たいていは評論家さんや経済学者さんだけど、これが革命だったなんて、始まってから言われても困るし、終わるときは事前に予告しておいてもらいたい。

でもバブル崩壊なんて事態、ちゃんとした識者たちは、とっくに見通していた。多くの産業で、旧来ブランドのネット対応がドットコム企業に追いついた。逆にB2Cの会社は、物流や財務といったリアルな対応がおぼつかず、1年前にはもう正念場を迎えていた。

その多くは知名度を上げるためにマーケティングに力を入れていた。ベンチャーの生命線たる研究開発費を削って、テレビのCMに売り上げの半分も回したりしていた。遠くない時期に、連中まるごとひっくり返される。そんな予感から数ヶ月後、バブルはプスツと壊れた。

ネットバブルの終焉は、ITがブームから日常になることだ。技術が少し落ち着いて、それをどう使いこなすかの段階に入った。これまでは技術を作る段階だった。サンフランシスコの南に広がるシリコンバレーが本拠地だった。そこから色んなテクノロジーや製品が生まれていった。

シリコンバレーはイナカだ。理科系の人たちが縁に囲まれてゆったり研究するにはいいところ。でもここ数年、ITのパワーは大都会に移ってきている。ニューヨーク、ワシントン、ボストン、ロサンゼルス……。

音楽やデザイン、広告の分野がITを駆使してコンテンツを作ったり、銀行や製造業というフツアの産業がITを使いこなしたりするようになってきたからだ。ビジネスマンやアーティストは都会が好きだもん。日本はアメリカの技術を利用するところから始めたから、いきなり渋谷だったわけだ。

技術からアート、ビジネスへ。イナカから都会へ。これすなわち成熟。これからが本番。これからが「革命」なのです。というスグITのヒトは喜ぶのだが、違うんだアンタらの時代は終わりなんだ。

だってITは道具だから。アートやビジネスにとって道具は安けりゃいいんだから。ITは紙やエンピツのようになっていくわけだから。日用品は裏方として引っ込んでいくんだから。

日用品になるのがまだつらいなら、インフラと言ってもいい。だとすると、ITが経済を引っ張るなんて姿は、電力や鉄が国家を支えていた頃のようなものだ。その後トヨタやホンダやソニーが台頭してきたように、そのパワーはいずれ、イ

ンフラを使った付加価値産業にシフトさせなきゃいけない。

IT産業を静かにさせて、コンテンツを爆発させる。早くそうしよう。

---